

山田 学が 2002 年からかかはつてゐる研究会発の 日英翻訳サイト をご紹介いたします。

機械翻訳の技術開発は苦難の連続です。数学・IT の論理と言語学・認識学・世界学の論理が異なるからです。日本の長尾 ^{まこと} 眞 先生の実際的な工夫などから少しづつ着実な歩みが始まり、NTT の研究陣が意味内容を尊重する日本独自の言語学に着目し、かなりの進展がありました。1996 年に「言語・認識・表現」研究会 (The Study Group of 'Language, Cognition, and Expression' 略称 LACE 研究会) が成立し、山田も 2002 年から参加してゐます。LACE 研究会の中核メンバーは独立行政法人科学技術振興機構が推進する「戦略的創造研究推進事業 (CREST)」の「高度メディア社会の生活情報技術」プロジェクトにも参加しました。長尾 眞監修『ヒューマン・インフォマティクス触れる・伝える・究める デジタル生活情報術』(工作舎 2005 年) に 3-3 池原 悟「思考や文章の本質に迫る」として紹介されてゐます。そして、今は大学発ベンチャーとして自立する準備期です。NTT 出身・新潟大学名誉教授の宮崎正弘先生が株式会社ラングテック (東京都世田谷区) を興し、まづは短文の日英翻訳サービス (30 日間の無料試用後に有料) のサイトを開始しました。まだ資金繰りが小さく、上記 CREST プロジェクトを含む長年の機械翻訳に関する継続的な研究により、日英機械翻訳などにおいて世界一かもしれない研究資産、それをまともに活用する条件 (サーバー容量など) はありません。多くの個人・教育機関・法人の利用と改善要求により少しづつ研究資産をまともに活用していく道を望んでゐます。

このサイトのシステムは、長期的には文脈を考慮した高度な翻訳処理を導入し、小説など文学作品の高品質な日英翻訳を実現するといふ 高い目標を掲げてゐます。当面は、日常会話やEメール・ブログなどネットを介した日常英語での情報発信、または、英作文・英会話の学習・教育のツールとしての利用を想定してゐます。ゲームソフト、マンガ、アニメ、映画などクール・ジャパンとして海外にて評価されてゐる日本語コンテンツの 英語化に有効なツールとなり、日本語コンテンツの 海外展開には づみがつくものと期待されます。

日本語的発想によるこなれた日本語に対応するため、日英間の発想の差を吸収する日本語書き換え機構を導入してゐます。慣用句・ことわざ・コロケーション (語と語の習慣的結び付き) の翻訳、固有名詞を含む同形語・多義語の判別や訳し分け、名詞句・複合名詞の翻訳などの機能を充実させてゐます。既存の翻訳ソフトでは無視されるか充分には対応できてゐない、日本語において省略されることが多い主語などの補完、助詞「は」「が」の差異を考慮した翻訳、冠詞付与、名詞の数の決定、適切な前置詞の選択などの機能も充実させてゐます。日常日本語を中学レベルの平易でわかりやすい日常英語に翻訳する、他に類を見ない機能です。なぜそのやうな訳文が出力されたかをユーザーに示す、翻訳過程の可視化、日本語入力文と訳文の対を利用者データベースに保存する“MyDB”など、ユーザーに便利な機能を備へてゐます。中学・高校で学ぶ英文法事項を網羅した日英対訳例文集である、日本語表現分類体系を備へてをり、翻訳過程の可視化機能とあはせ、英語学習・教育にも有効利用できませう。

ラングテック社サイト <http://www.languetech.co.jp> へ飛べば 無料試用のための ID を取得できます。(「話せるよーん・書けるよーん」アイコンから) より高水準をめざす日英翻訳システムの利用と機能向上へあなたもご参画ください。パソコン、タブレット、スマホに対応。

なほ、LACE 研究会が目した言語学者のひとり・三浦つとむについて横須賀壽子編『胸中にあり火の柱 三浦つとむの遺したのもの』(明石書店 2002 年) といふ追悼集があります。その 40～49 ペに池原 悟「自然言語処理と言語過程説」があります。池原 悟先生は NTT 出身・鳥取大学教授で LACE 研究会の中心的推進者でしたが、2009 年末に志半ばにて永眠されました。先生は若いころ、機械翻訳以前は、数式処理やコンピュータシステムの性能評価法の研究で、大きな業績をあげましたが、無理をしすぎて腎臓をやられ、ずっと人工透析生活でした。しかし、精神的にはとても活力のある先生で、山田も多くを教へられました。先の追悼集 241～244 ペには山田 学「三浦つとむ・世界平和・一学徒」があります。意味とはなにかをひろく深く理解した言語と言語処理機械を創造していくことが世界平和への着実な道です。追悼集には吉本隆明一家 4 人もそれぞれ寄稿されてゐます。JOMON あかでみいサイト「理念集」画面にある「日本民族紹介と日英翻訳機械」「対象と言語」「現実論としての数学を」「やまことばの世界観と音韻の論理」は山田がそれぞれ 2006 年・2008 年・2009 年・2013 年の LACE 研究会発表のために執筆しました。言語にとって美とはなにか。言語にとって機械処理とはなにか。日本語人が英語人になにをどう発言していくか。